

子どもたちの
声を反映



高校生県議会が
開催されました

車イスの方の
声を反映



歩道のバリアフリー化を
実現しました

福井県議会議員
中村 あやな

ママの声を反映



運動公園の屋内休憩所が
リニューアルされます

無所属3人参政党1人の
メンバーで連携し、
議会に新しい風を送ります！



△ 越前若狭の会 △
会派を結成いたしました！

ママも頑張りましたが、
子どもたちも頑張りました
次はパパがんばれー♪



子育て奮闘記

Live配信中
7:30～ FBライブ配信
8:00～ Instagram
ライブ配信

毎週金曜日市内各地で
街頭演説しています！

福井県議会議員

中村 あやな

事務所：〒918-8054 福井市加茂河原町20-25-17

自宅：〒918-8217 福井市印田町1-65

0776-35-3632

heart@ayana-nakamura.com



日々の活動や議会発言などより詳しく
書いてあります。ぜひご覧下さい!!

イロトリドリ

みんなちがっていい。
みんなちがうからおもしろく、つよくなる。
多様性を認め、活かしあう県へ。

Vol.1

福井県議会議員
中村 あやな
藤本一希

おかげ様で県議として活動をスタート!!/



ほとんど毎日行なうことは同じです！



県議会議員になってどうですか？

おかげ様で充実した毎日を送らせて頂いております。
市では実現できなかったこと、例えば子育て、介護、
教育、産業、観光政策のさらなる充実について、訴え
ていきます！

県と市はどうちがいますか？

福井市の方だけでなく、他市町村の方からもご相談を
頂くようになった他、広範囲の分野において相談を
受けられるようになりました。例えば、市には病院や
原発がありませんでしたので、医療福祉、エネルギー
政策に携わることができるようになりました。観光や
産業に関しても、これまで関わりがなかった所も多く
あり、しっかり調査しなくてはと思っております！

初 当庁 一期生のメンバーと



37人中13人が新人議員
(女性議員は2人のみ)

初 めての議会

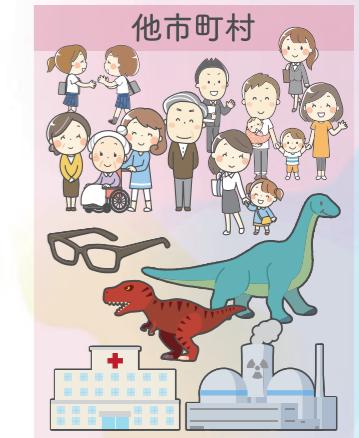


R5・6月議会

初 の女性副知事誕生



細川県議
2児の子育て真っ最中の女性です



お問い合わせ

福井県議会議員

中村 あやな

事務所：〒918-8054 福井市加茂河原町20-25-17

自宅：〒918-8217 福井市印田町1-65

0776-35-3632

heart@ayana-nakamura.com



日々の活動や議会発言などより詳しく
書いてあります。ぜひご覧下さい!!

議会活動

みんなの声を 知事に届けます!

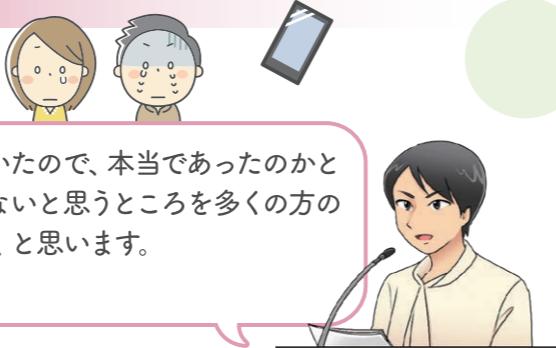


県議会は年4回（6月、9月、12月、1月、3月）定例的に開かれる議会と、必要に応じ開かれる臨時会があります。

定例会では、開会本会議⇒代表質問⇒一般質問⇒常任委員会⇒予算特別委員会⇒閉会本会議の順に行われます。議会の閉会中でも、必要に応じ閉会中も委員会が開かれたり、県内外の現地調査を行うなど、県民の皆さんの要望等を県政に反映させるための活動をしています。

一般質問

● 男性も含めた、性被害相談支援の充実を！



元ジャニーズジュニアのメンバーの性被害告発。まことしやかに噂されていたので、本当であったのかと大変に衝撃を受けました。なるべくなら、自分の被害を誰にも話したくないと思うところを多くの方の前で、テレビで公表するというのは、本当に勇気が必要だったのでは、、と思います。社会が変わろとしている今、しっかりと県として対応をお願いしたい。

本県における性犯罪、性暴力被害の相談窓口としては、性暴力救済センター「ひなぎく」と県警察の2つがある。いずれも365日、24時間体制で相談を受け付けている。そのうち、ひなぎくにおける直近5年間の1年間の平均の相談者数は193人。うち男性の相談者数は、約50人。県では、もしものときのお役立ち電話帳としてリーフレットを、ひなぎくでは、リーフレットや広報カードを作っている。今後も、公共施設やコンビニ等を活用するなどして、性別を問わず、幅広く相談できる窓口として周知に努めていく。

● 在籍校復帰にとらわれない不登校支援と、抜本的な教育制度の見直しを！

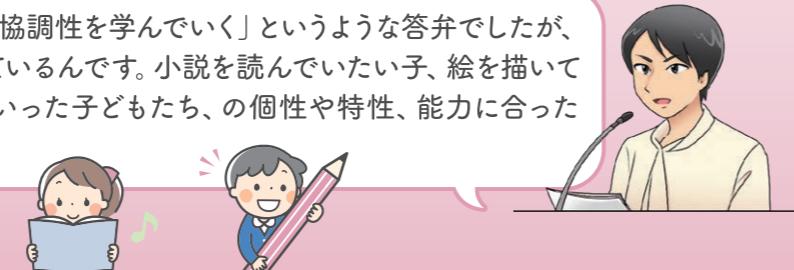


小中学校の不登校児童は増加し、2021年度は福井県内で1,087人、過去10年で初めて1,000人を超えた。不登校にカウントされない休みがちな子どもたち、保健室に通っている子どもたちも多い。しかし、不登校生徒の受皿になるような不登校特例校やフリースクールなどは本県には少なく、学校以外の多様な学習機会は少ないのが現状である。

学校になじめない、ついていけない、生きづらさを抱えた子どもたちは、ひきこもりになったり、個性の受容を求めて県外に出て帰ってこなったりと、悪循環にもつながっているのではないか。

学校では一人一人の子どもが他者や集団と関わり合いながら、同じ場所で共に時間を過ごし学び合うことにより、社会性や協調性が生まれる、そのような集団生活を通して人間性が高められ成長していくことが、今の学校のよさであると認識している。そのため教員は、全ての子どもたちが元気に登校してほしいという願いを持って、日々の教育活動を行っている。

子どもたちを救ってあげてほしい。「学校で社会性や協調性を学んでいく」というような答弁でしたが、学校になじめない子どもたち、一人でいたい子だっているんです。小説を読んでいたい子、絵を描いていたい子、いろんな子どもたちの特性がある。そういう子どもたちの個性や特性、能力に合った教育を推進してほしい。



開会本会議

知事より議案と
予算の説明がある

一般質問

知事や部長に
対し質問し、
答弁を求める

常任委員会

議案、請願の
審査と、所管する
県政の諸問題に
についての調査

予算特別 委員会

予算審議と、
県政の
諸課題について
一問一答をする

閉会本会議

議案の
採決をする

常任委員会(厚生常任委員会)

● 医師不足の解消を！



医師不足について現状を教えてほしい。いろんな分野で医師不足であるかと思うが、特に、精神科医というか精神保健センターに常勤の医師がいないというのが、一つ大きな課題ではないか。



医師の数は全般的に言えば、福井県の医師の数は全国中位。そこそこ上のほうの状況である。精神科医は大体全国平均と同じぐらいの数である。精神保健センターの常勤医師については（精神保健福祉）家族会の方からも、ぜひ常勤の医師を置いてほしいという要望をお聞きしているところであり、課題を解決できないかと考えている。

● 重度障がい支援への充実を！



強度行動障がいの方々は一人一人特性がありサポートが必要で、人員を非常に必要とする。国の報酬や配置基準のことではあるが、国への要望だけではなく、ぜひ県独自で上乗せも考えていただきたい。



国に強度行動障がい関係の対応をしっかりしていただくよう、今年度の重点要望に盛り込んでいる。引き続きしっかり取り組んでいきたいと思う。



予算特別委員会

● 県庁を移転し、県立大学のまちなかキャンパスとして活用を！

耐用年数が来る前に県庁移転をしてはどうか。そして、県立大学のまちなかキャンパスとして活用してはどうか。そうすると、まちなかに若者があふれる、子どもたちが遊ぶ場もできる、子どもたちや若者向けのショップ等も増えるのではないかと思う。



現時点では具体的な検討を行ってはいないが、将来必ずこのことを議論すべき時期がやってくる。県議会を初め各界、各層の意見を幅広く聞きながら、まちづくり、あるいは行政サービスの在り方など、いろんな観点からこの問題を幅広く検討していく必要があると考えている。

80年、100年の耐用年数をしっかり使い切るか、それとも途中で何かしら機能移転とか、そういうことも一度、検討していただきたい。

